シラバス（授業計画書）

工業専門課程　電子情報研究科

科　目　名	キャリアガイダンス（688）				教 科 区 分	一般教育科目
					必修 / 選択	必　修
担 当 教 員					実　務　経　験　内　容	
e-mail						
連　絡　先	10号館2階　職員室					
開　講　期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単　位　数	2	-	-	-		

科　目　の　ね　ら　い　・　到　達　目　標
社会人になるにあたっての心構え、礼儀、言葉づかい、マナーなどを学び、社会人としての意識を高めるとともに、就職活動のため、履歴書の書き方、文書の書き方なども学習をする。また、ビジネスマナーを中心として、文書の書き方、言葉づかい、弔事・慶事のマナーについても学習する。また公務員志望の学生がいますから、作文指導も行う。

授 業 形 態	演　習	教　　室	10号館6階　1065教室	補 助 教 員	

授業は演習形式であり、必要に応じて、履歴書の書き方や作文の練習を適宜課題を出している。

教　科　書 教　　材	配布プリント

授　業　計　画　・　内　容
●授業時間：２単位時間／回 【前期】 1回　就職に関する内容を中心に進める。 2回　求人企業の紹介 3～4回　作文の書き方・考え方 5回　学内で実施される説明会の対応 6回　企業研究 7回　自己分析 8回　自己ＰＲを考える 9回　志望動機を考える 10～12回　面接試験で出題される質問項目 13～16回　模擬面接 【後期】 15回　未決定者による就職に関する内容と中心に進める 16～25回　体育祭、学園祭について 26回　内定企業への年賀状など挨拶文の作成方法 27回　社会人としての体調管理、時間の管理の重要性について 28～32回　社会人としてのビジネスマナー □

評価コード	11
評 価 方 法	・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程　電子情報研究科

科　目　名	経済学（101）				教 科 区 分	一般教育科目
					必修 / 選択	必　修
担 当 教 員					実　務　経　験　内　容	
e-mail						
連　絡　先	10号館２階　職員室					
開　講　期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単　位　数	1	-	-	-		

科　目　の　ね　ら　い　・　到　達　目　標
日本の戦後の復興から国際社会への復帰、高度経済成長からバブル経済の発生と崩壊まで、日本が辿った国内経済の歴史を学び、現代社会における経済の諸問題を考える。また、国際経済の役割及び世界の経済体制の特色など、日本と国際経済の関係を学ぶ。そして、近年話題になっている地球環境問題について、エネルギー・人口・食糧問題の観点から学ぶ。その他、新聞紙上によく登場する経済用語などを理解する。

授 業 形 態	講　義	教　　室	10号館6階　1065教室	補 助 教 員	

授業は講義形式であり、社会人として必要な知識を身につける。また、就職試験に対応するために、例題の解法を行う。

教　科　書 教　　材	最新図説　政経　（浜島書店）

授　業　計　画　・　内　容
●授業時間：２単位時間／回　後期のみ 【後期】 1回　国内経済　資本主義経済の発展と変容 2回　国内経済　社会主義の特徴と現状 3回　国内経済　経済の循環と企業 4回　国内経済　市場経済の機能と限界 5回　国内経済　国民所得と富国、景気変動と政府の役割 6回　国内経済　物価の動き、財政の役割 7回　国内経済　金融の役割、日本経済の歩み 8回　国内経済　中小企業と日本経済、日本の農業・食糧問題 9回　国内経済　公害防止と環境保全、消費者保護 10回　国内経済　社会保障と社会福祉、労使関係と労働市場 11回　国際経済　貿易と国際収支 12回　国際経済　国際経済の仕組み 13回　国際経済　南北問題、国際経済における日本 14回　現代社会の諸課題　地球環境問題 15回　現代社会の諸課題　資源・エネルギー問題 16回　現代社会の諸課題　科学技術の光と影、 人口・食糧問題

評価コード	3
評 価 方 法	・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、Ｓ（90～100点）、Ａ（80～89点）、Ｂ（70～79点）、Ｃ（60～69点）、Ｆ（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がＦの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の６に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（１点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程　電子情報研究科

科　目　名	英会話（172）				教 科 区 分	一般教育科目
					必修 / 選択	必　修
担 当 教 員					実　務　経　験　内　容	
e-mail						
連　絡　先	10号館２階　職員室					
開　講　期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単　位　数	2	-	-	-		

科　目　の　ね　ら　い　・　到　達　目　標
工業技術を進歩、発展させるためには、諸外国の優れた技術に関する知識・情報を知ることも大切である。そのためには、それぞれの技術について書かれた書籍・文献・説明書などを読むことが必要であるが、それらの多くは英語で書かれている。また、諸外国の技術者との交流も現代社会では少なくなく、会話には英語が用いられることが多い。本講義では、工学系の技術者にとって必要な技術英語の専門用語や文章表現法を学習し、読解力およよび会話力を身につける。

授 業 形 態	講　義	教　　室	10号館６階1065教室	補 助 教 員	

授業は講義形式であり、必要に応じて文章作成や英会話など適宜課題を出している。

教　科　書 教　　材	テクニカルイングリッシュ入門（成美堂）

授　業　計　画　・　内　容
●授業時間：２単位時間／回 【前期】 第１回　英文法（１）　文法の基礎（不定詞、分詞、動名詞） 第２回　英文法（２）　文法の基礎（関係代名詞、関係副詞） 第３回～第４回　数式の英語表現（１）　数量、数の単位 第５回～第６回　数式の英語表現（２）　四則演算、累乗と根 第７回　数式の英語表現（３）　括弧と比例ほか 第８回　図形の英語表現（１）　平面図形（角、線、三角形、多角形） 第９回　図形の英語表現（２）　平面図形（円、接線） 第10回～第11回　図形の英語表現（３）　立体図形（円柱、角柱、円錐、角錐） 第12回～第13回　図形の英語表現（４）　位置関係（物の場所） 第14回～第16回　数式・図形の総合演習　基本文章の和訳、英作文 【後期】 第17回～第18回　電気基礎の英語表現（１）　直流と交流 第19回　電気基礎の英語表現（２）　ベクトルと複素数 第20回～第21回　電気基礎の英語表現（３）　磁界と電界 第22回～第23回　電気基礎の英語表現（４）　電磁誘導 第24回～第25回　計測器の英語表現（１）　測定、計器 第26回～第27回　計測器の英語表現（２）　積算計器、遠隔測定 第28回　電気・計測の総合演習　基本文章の和訳、英作文 第29回　最近の電気・情報工学　技術論文・英文取扱説明書の和訳 第30回～第32回　英語とコミュニケーション　初歩的な英文によるプレゼンテーション技法

評価コード	3
評 価 方 法	・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、Ｓ（90～100点）、Ａ（80～89点）、Ｂ（70～79点）、Ｃ（60～69点）、Ｆ（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がＦの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の６に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（１点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程　電子情報研究科

科　目　名	モバイル通信システム（A21）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必　修
担 当 教 員					実　務　経　験　内　容	
e-mail					情報通信に関する業務を担当。培った知識・経験を活かし講義を行っている。	
連　絡　先	10号館２階　職員室					
開　講　期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単　位　数	2	-	-	-		

科　目　の　ね　ら　い　・　到　達　目　標
情報通信は、日々進化し、新しい技術に基づいたサービスも展開されている。この科目では、携帯電話やWiMAXなどモバイルネットワークで使用されている技術やつながる仕組みを学ぶ。

授 業 形 態	講　義	教　　室	10号館6階　1065教室	補 助 教 員	

授業は講義形式であり、基礎から応用まで幅広く学習する。また、目標とする通信系の資格試験に対応するために、既往問題を中心とした例題の解法を行う。

教　科　書 教　　材	モバイル基礎テキスト　第7版　（リックテレコム）

授　業　計　画　・　内　容
●授業時間：２単位時間／回 【前期】 1回　携帯電話の歴史（1G～4G） 2～3回　クラウドを支える通信技術　無線通信の推移（ブロードバンドの普及） 4回　インターネットの全体像とインターネットでできること 5回　コネクション型ネットワークとコネクションレス型ネットワーク 6回　NGNとは ７～８回　光ファイバ伝送の原理、FTTH ９回　ワンセグ放送の原理 10～12回　試用周波数帯の特色と、波長とアンテナの関係 13回　セルの構成とハンドオーバー 14回　携帯電話のネットワーク仕組みと位置登録 15～16回　前期のまとめ 【後期】 17回　多元接続（FDMA,TDMA,CDMA） 18回　高速データ通信（OFDM,MIMO,HSDPAデータ伝送方式） 19回　LTEで使用される高速化技術 20～22回　PHSとWiMAX、4GとWiMAX 23回　無線LANの規格と伝送技術 24回　BluetoothとUWB　19回　GPSの原理と測位技術 25回　ドメインネームシステム（ドメイン名とDNSサーバ） 26～27回　電子メールの仕組み（SMTPとIMAP） 28回　VoIP技術、加入電話との違い、VoIPゲートウェイの機能 29回　呼制御プロトコル（SIP）について 30～32回　後期まとめ

評価コード	3

評 価 方 法	・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、Ｓ（90～100点）、Ａ（80～89点）、Ｂ（70～79点）、Ｃ（60～69点）、Ｆ（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がＦの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の６に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（１点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程　電子情報研究科

科　目　名	情報セキュリティ（666）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必　修
担 当 教 員					実　務　経　験　内　容	
e-mail						
連　絡　先	10号館２階　職員室					
開　講　期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単　位　数	2	－	－	－		

科　目　の　ね　ら　い　・　到　達　目　標
インターネットが普及し、メールや商取引など様々な場面でネットワークを介した情報のやり取りが行われている。一方で、企業は経営資源として多くの情報を保有するようになった。はたして、ネットワーク上で交わされる重要な情報、企業が抱える膨大な情報資源は、改ざんや盗聴および情報の持ち出しなどの脅威から守られているのだろうか？この科目では、匿名社会であるインターネットで重要情報を交わす場合の脅威とそれを防ぐ為の技術について学ぶ。

授 業 形 態	講　義	教　　室	10号館6階　1065教室	補 助 教 員	

授業は講義形式であり、基礎から応用まで幅広く学習する。また、目標とする国家資格に対応するために、既往問題を中心とした例題の解法を行う。

教　科　書 教　　材	情報セキュリティ　実教出版

授　業　計　画　・　内　容
●授業時間：２単位時間／回 【前期】 第1・2回 情報セキュリティにおける被害事例 第3・4回 セキュリティの基本概念 第5・6回 情報資産とリスク、インシデント 第7・8回 マルウェア、不正アクセス 第9・10回 サービス妨害 第11・12回 システムの脆弱性 第13・14回 組織に内在する脆弱性 第15・16回 マルウェアに感染と原因 【後期】 第17・18回 脆弱性の解消 第19・20回 ウィルスソフトのインストールと更新等 第21・22回 体制の整備とポリシーの策定 第23・24回 心得 第25・26回 情報漏えい 第27・28回 アカウント、ＩＤ、パスワード 第29・30回 攻撃手法 第31・32回 脆弱を悪用する攻撃、ファイヤーウォール、暗号とデジタル署名

評価コード	3
評 価 方 法	・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、Ｓ（90～100点）、Ａ（80～89点）、Ｂ（70～79点）、Ｃ（60～69点）、Ｆ（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がＦの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の６に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（１点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程　電子情報研究科

科　目　名	ネットワーク実習（351）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必　修
担 当 教 員					実　務　経　験　内　容	
e-mail						
連　絡　先	10号館 2階 職員室					
開　講　期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単　位　数	4	-	-	-		

科　目　の　ね　ら　い　・　到　達　目　標
情報通信技術者として、無線通信のみならずIPネットワークの知識は必須となっている。本授業では、Cisco製のルータとスイッチングハブのコマンドを学びながら、中小規模のネットワークの設計と構築ができるようになることを目標としている。特に研究科における授業では、すでに履修したネットワーク実習の内容を発展させた内容になっている。

授 業 形 態	実　習	教　　室	327	補 助 教 員	

授業は、シミュレータソフトを用いてネットワークの設計法を学ぶが、実機を使った課題にも取り組む。期の途中に課題提出が数回あり提出状況を平常点として評価する。教材は、デジタルテキストになっておりサーバからダウンロードして利用できるようになている。

教　科　書	・デジタルテキスト
教　　材	・シミュレータソフト

授　業　計　画　・　内　容

●授業時間：４単位時間／回

【1年次前期】

第 1回　サブネット分割（/24）：設計演習
第 2回　サブネット分割（/16）：設計演習
第 3回　VLSM：説明と設計演習
第 4回　トラブルシューティング：showコマンドとICMP
第 5回　DHCPとVLAN
第 6回　ルーティング：設計演習
第 7回　デバイス管理：パスワードリカバリ
第 8回　LAN設計演習(1)／実機トレーニング
第 9回　LAN設計演習(2)／実機トレーニング
第10回　LAN設計演習(3)／実機トレーニング
第11回　LAN設計演習(4)／実機トレーニング
第12回　スキルテスト
第13回　L2スイッチの設定／ポートセキュリティとSTP
第14回　LAN設計演習(5)／実機トレーニング
第15回　LAN設計演習(6)／実機トレーニング
第16回　標準アクセス制御リスト

【1年次後期】

第17回　拡張アクセス制御リスト
第18回　IPv6アドレッシング
第19回　IPv6ルーティング
第20回　LAN設計演習(7)／実機トレーニング
第21回　LAN設計演習(8)／実機トレーニング
第22回　LAN設計演習(9)／実機トレーニング
第23回　LAN設計演習(10)／実機トレーニング
第24回　スキルテスト
第25回　総括
第26回　LAN設計演習(11)／実機トレーニング
第27回　LAN設計演習(12)／実機トレーニング
第28回　LAN設計演習(13)／実機トレーニング
第29回　LAN設計演習(14)／実機トレーニング
第30回　LAN設計演習(15)／実機トレーニング
第31回　スキルテスト
第32回　総括

評価コード	13

評 価 方 法	・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程　電子情報研究科

科　目　名	プログラム実習（794）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必　修
担 当 教 員					実　務　経　験　内　容	
e-mail						
連　絡　先	10号館２階　職員室					
開　講　期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単　位　数	2	-	-	-		

科　目　の　ね　ら　い　・　到　達　目　標
インターネットの基本であるTCP/IPをアプリケーションレベルでプログラミングをしながら理解を深める。Javaという言語のプログラミングを学習する。

授 業 形 態	実　習	教　　室	3号館５階　356教室	補 助 教 員	なし
授業は講義形式であるが、パソコンを使った実技が中心となる。また、適宜課題を設け、授業時間内に提出させている。					

教　科　書 教　　材	基礎からわかるTCP/IP Javaネットワークプログラミング　第2版

授　業　計　画　・　内　容
●授業時間：２単位時間／回 【前期】 1～ 2回　Javaコンパイラをインストール 3～ 4回　Javaによるプログラミング 1 5～ 6回　Javaによるプログラミング 2 7～ 8回　Javaによるプログラミング 3 9～10回　Javaによるプログラミング 4 11～12回　Javaによるプログラミング 5 13～14回　Javaによるプログラミング 6 15～16回　Javaによるプログラミング 7 【後期】 17～18回　Javaによるプログラミング 7 19～20回　Javaによるプログラミング 8 21～22回　Javaによるプログラミング 9 23～24回　Javaによるプログラミング 10 25～26回　Javaによるプログラミング 11 27～28回　Javaによるプログラミング 12 29～30回　Javaによるプログラミング 13 31～32回　Javaによるプログラミング 14

評価コード	13
評 価 方 法	・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程　電子情報研究科

科　目　名	回路製作実習（128）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必　修
担 当 教 員					実　務　経　験　内　容	
e-mail						
連　絡　先	10号館2階職員室					
開　講　期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単　位　数	2	－	－	－		

科　目　の　ね　ら　い　・　到　達　目　標
ユニバーサル基板の回路CADを用いて、実装図の設計をする。 基板加工機用の回路CADを用いて、基板の設計をする。 電子機器組み立て技能士試験の技能試験規定に合わせたはんだ付けを行い、技術力を高める。

授 業 形 態	実　習	教　　室	356教室、627教室	補 助 教 員	なし
課題製作が中心となっている。電子回路の製作を図面から実装、動作までを行い、回路の動作が理解出来るようにする。					

教　科　書 教　　材	プリント資料

授　業　計　画　・　内　容
●授業時間：２単位時間／回 【1年次前期】 第1回　回路CADの説明 第2～3回　見本回路の設計 第4～8回　回路図を元に設計 第9～10回　プリント基板用回路CADの説明 第11～12回　見本回路の設計 第13～16回　回路図を元に設計 【1年次後期】 第17～18回　基板加工機用ソフトの説明 第19～20回　設計したデータを基板加工機用に調整 第21～23回　技能士試験用の実習指導 第24～32回　基板加工機で作成した基板の実装

評価コード	13
評 価 方 法	・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程　電子情報研究科

科　目　名	工程管理（470）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必　修
担 当 教 員					実　務　経　験　内　容	
e-mail						
連　絡　先	10号館２階　職員室					
開　講　期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単　位　数	1	-	-	-		

科　目　の　ね　ら　い　・　到　達　目　標
工程管理の計画機能と統制機能について理解を深め、電気技術者として必要な知識である、保全業務・設備管理・安全管理などの理解を更に深めることを目標とする。また、企業で行われている生産活動の実態（組織・動き・手法）を理解し、将来自分がその一員となった場合どのように動けば仲間から歓迎され・信頼されるようになれるかの知識を習得する。

授 業 形 態	講　義	教　　室	10号館6階　1065教室	補 助 教 員	

授業は講義形式であり、基礎から応用まで幅広く学習する。また、目標とする国家試験に対応するために、既往問題を中心とした例題の解法を行う。

教　科　書 教　　材	機械工学入門シリーズ　生産管理入門　第４版　（オーム社）

授　業　計　画　・　内　容
●授業時間：２単位時間／回　前期のみ 【前期】 1回　生産とは、経営とは、管理とは、などの概念を掴む 2回　企業と工場、人間関係の重視、精算管理の合理化 3回　企業の組織、ラインとスタッフ 4回　QCサークル、ZD運動 5回　研究開発、製品設計 6回　生産方式の決定、工場立地 7回　工場計画、負荷計画 8回～10回　日程計画とアローダイアグラム 11回～12回　アローダイアグラムに関する計算 13回　パートの計算法とクリティカルパスの求め方 14回　工程研究、オートメーション 15回　動作研究、標準時間の設定法 16回　まとめ

評価コード	3
評 価 方 法	・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、Ｓ（90～100点）、Ａ（80～89点）、Ｂ（70～79点）、Ｃ（60～69点）、Ｆ（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がＦの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の６に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（１点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程　電子情報研究科

科　目　名	演習（208）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必　修
担 当 教 員					実　務　経　験　内　容	
e-mail					情報通信に関する業務を担当。培った知識・経験を活かし講義を行っている。	
連　絡　先	10号館2階職員室					
開　講　期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単　位　数	4	-	-	-		

科　目　の　ね　ら　い　・　到　達　目　標
モバイルシステム技術検定試験2級の合格を目指す。 移動体通信システムの概要をはじめ、サービスとネットワーク技術、端末に関するハードウェアとソフトウェアの技術、モバイルインターネットとIP技術、セキュリティ技術など、モバイルシステム全般に関する主要技術について理解を深める。 電気通信主任技術者（伝送交換）の設備管理、法規に必要な基礎知識と習得し、過去問を解きながら問題の解説を行う。

授 業 形 態	講　義	教　　室	1065	補 助 教 員	

授業は講義形式であり、基礎から応用まで幅広く学習する。また、目標とする国家資格に対応するために、既往問題を中心とした例題の解法を行う。

教　科　書 教　　材	過去問プリント

授　業　計　画　・　内　容
●授業時間：２単位時間／回 【1年次前期】 1～ 5回　モバイル技術検定について、スマートフォン・モバイルについて 6～ 9回　通信・通話の仕組み 10～12回　5G／IoT／AIの最新動向 13～15回　インターネットの基礎と接続 16～17回　復習問題 18～22回　モバイル機器の構造、モバイル端末のソフトウェア 23～25回　モバイルコンテンツの特徴、モバイルにおけるセキュリティ 26～28回　モバイルに関する法制度および関連知識 29～30回　復習問題 31～32回　総まとめ 【１年次後期】 33～35回　電気通信事業法・電気通信事業法施工規則、電気通信主任技術者規則、事業用電気通信設備規則 36～38回　端末設備等規則、有線電気通信法、有線電気通信設備令・有線電気通信設備令施工規則 39～41回　電波法、国際電気通信連合憲章、電子署名及び認証業務に関する法律、法規のまとめ 42～45回　法規過去問演習 46～51回　伝送技術、通信プロトコル、ネットワーク技術、無線通信技術 52～58回　セキュリティ、電源設備、設備管理 59～64回　設備管理過去問演習

評価コード	3
評 価 方 法	・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、Ｓ（90～100点）、Ａ（80～89点）、Ｂ（70～79点）、Ｃ（60～69点）、Ｆ（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がＦの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の６に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（１点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程　電子情報研究科

科　目　名	ゼミナール（324）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必　修
担 当 教 員					実　務　経　験　内　容	
e-mail					通信機の修理技術者として培った知識、経験を活かし講義を行っている。	
連　絡　先	10号館２階　職員室					
開　講　期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単　位　数	10	－	－	－		

科　目　の　ね　ら　い　・　到　達　目　標
ネットワーク、エレクトロニクスおよびオーディオに関するような、電子回路又は通信情報のテーマをそれぞれグループに分けて、1年かけて研究する。

授 業 形 態	実　習	教　　室	号館2階625、3号館2階3	補 助 教 員	

4～5人の班単位で、それぞれのテーマを作り、それに応じて回路製作、データ処理等を行い紀要を作成してプレゼンテーションを各班ごとに行わせる。

教　科　書 教　　材	配布プリント

授　業　計　画　・　内　容
●授業時間：５単位時間／回 【前期】 １回　テーマの説明と班分け ２回　各テーマごとの概要説明 ３～32回　各グループごとに分かれてテーマに関する製作回路や実験データの分析 【後期】 33～50回　前期同様、各グループごとに分かれてテーマに関する製作回路や実験データの分析 51～63回　報告書のまとめとプレゼンテーションの準備 64回　プレゼンテーション

評価コード	13
評 価 方 法	・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。